

IBS フェローシップ全体概要

IBS フェローシップ

IBSはわが国の学術研究活動に寄与することを目的として、研究助成制度（IBS フェローシップ）を実施している。これは、IBSの創立30周年を記念して創設されたもので、1994年度より開始された。毎年、2課題についてそれぞれ一人研究者を公募し、2年間の研究期間に渡り、海外における特定課題の研究を助成し、研究成果を公表している。これまでに、11編の報告がなされ、3編は継続中である。

本年度は第5回の第二課題「メキシコの小都市メックスカルティトラン Mexcaltitlan の都市の自

立性とその将来について」(委嘱者 齊藤麻人) および第6回の第二課題「コンテナ輸送に関する日本の立場—ロッテルダム港との比較—」(委嘱者 土井正幸) についての2編の最終報告がなされた(概要をp.64-74に掲載)。

本年度は諸事情により、新規の研究委嘱はなされなかった。今後の委嘱者についてはIBSホームページ(www.ibs.or.jp)や都市計画学会誌を通じ、公募を予定している。

回数	課題および委嘱者(最終報告時肩書き)	
第1回 1994年度	第1課題	「業務拠点都市・クロイドン開発の歴史的経緯」 西山 康雄(東京電機大学 建築学科 教授)
	第2課題	「Milton Keynesにおける自動車の利用と道路計画に関する実証的研究」 高橋 洋二(東京商船大学 流通情報工学科 教授)
第2回 1995年度	第1課題	「Hammerfestの戦後復興における市街地整備に関する研究」 谷口 守(岡山大学 環境理工学部 環境デザイン工学科 講師)
	第2課題	「キティマッソーリソース・フロンティアにおけるサステイナブル・ディプロップメントの可能性—」 榎戸 敬介(株式会社 アーバンハウス都市建築研究所 研究員)
第3回 1996年度	第1課題	「地方空港の歴史と将来 —シャノン・ガンダー・中標津—」 田村 亨(室蘭工業大学 助教授)
	第2課題	「新首都の誕生と成長—Canberraの100年—」 岸井 隆幸(日本大学 理工学部 土木工学科 教授)
第4回 1997年度	第1課題	「田園地帯の計画と保全—田園都市論の影響と今日的意義—」 風見 正三(大成建設 設計本部 環境デザイングループ)
	第2課題	「ロンドン・ミュージズの誕生・死・再生—世界の都心居住空間の再生を目指して—」 宇高 雄志(広島大学 工学部 建築学科 助手)
第5回 1998年度	第1課題	「ローマ市郊外と東京都市圏の大型ショッピングセンター形成化にかかわる比較研究」 堀江 興(新潟工科大学 大学院 教授)
	第2課題	「メキシコの小都市メックスカルティトランの都市の自立性とその将来について」 齊藤 麻人(ロンドン大学 政治経済学院 地理環境学部 大学院)
第6回 1999年度	第1課題	「カナダ内陸部の或る住宅団地形成経過の考察」 勝又 太郎(株式会社 東京三菱銀行 ストラクチャードファイナンス部 インフラプロジェクトグループ)
	第2課題	「欧州と日本における港湾と企業物流の動向」 土井 正幸(筑波大学 社会工学系 教授)
第7回 2000年度	第1課題	「コバカバナ地区で働く人々の住宅と職場の関係」 土生 珠里(九州大学大学院 人間環境学研究科 空間システム専攻 社会人博士課程)
	第2課題	「イギリスの地方都市ニューベリーのバイパス道路について」 村上 睦夫(株式会社 都市プラン研究所 代表取締役)

IBS フェローシップ実施要領(抜粋)

- 課題は毎年原則として2課題とし、それぞれ、1名の研究者に委嘱する。
- 研究者は、学歴、職歴を問わないが、海外生活経験者を原則とする。
- 募集は関係機関(大学、団体、学会その他)機関紙・誌等を通じての公募とし、運営委員会の選考を経て、研究者を決定、公表する。
- 選考された研究者は、以下の報告の義務を負う。
 - ① 選考された年のIBS創立記念研究発表会(通常7月14日)に研究方法の概要を発表
 - ② 2年目の同発表会に中間報告を発表
 - ③ 同年度末までに最終報告書を提出
 - ④ 3年目の同発表会に最終報告を発表
- IBSは、提出された最終報告書を3年目の発表会で公表する。
- 上記以外の研究成果の発表は研究者の自由である。